



# 水先案内人紹介

第80回ピースボート地球一周の船旅

## 水先案内人とは…？

ジャーナリスト、エンターテイナー、作家、NGO活動家、大学教授---。国内外の各分野の専門家が、クルーズの一区間で乗船します。ピースボートの洋上では水先案内人による、訪問する国々の文化や社会問題をわかりやすく、かつ鋭く語る講座のほか、コンサートやイベントが目白押しです。「先生」ではなく、「同航者」の一人として、ピースボートの船旅をより有意義なものへと導くナビゲーターの皆さんを、ピースボートでは「水先案内人」(通称:水案【みずあん】)と呼んでいます。

## 水先案内人パートナー『水パ』をやってみよう！

「水パ」とは水先案内人パートナーの略称です。水先案内人による船内企画をより楽しく有意義なものにするために、水先案内人のパートナーとして一緒に企画の内容を考え、宣伝や本番の進行をつとめる人たちのこと。言ってみれば「水先案内人企画実行委員会」の一員です。参加者のみなさんから募集するので、誰でも「水パ」になることができます。打ち合わせだけでなく、船内生活を共にする中で、普段なかなか接することのない「その道のプロ」と身近に話せるまたとないチャンス。「水パ」は寄港地から新しい水先案内人が乗船する度に募集します。ぜひ、やってみましょう！

### 横浜 ▶▶▶ シンガポール



#### 深津 高子

FUKATSU Takako

国際モンテッソーリ協会公認教師 / NPO幼い難民を考える会理事

1980年代、タイ国境地帯のインドシナ難民キャンプで救援活動中、命からがら国境を越えてきた多くの「難民」に会う。「なぜ難民がでるのか」「どうすれば戦争がなくなるのか」と自問中、あるキャンプ内の保育所で「平和は子どもから始まる」という答えに出会う。帰国後、幼児教育の勉強を経てモンテッ

ソーリ幼稚園に勤務。現在はフリーの保育アドバイザーとして子どもの発達を考慮した幼稚園・保育園作りや、教師養成の通訳をしている。今回、洋上モンテッソーリプログラム「ピースボート子どもの家」のアドバイザーとして乗船。現在、そして未来のお父さんお母さんたちに向けた船内企画も行っていただく。



#### 伊藤 剛

ITO Takeshi

ASOBOT 代表取締役 / GENERATION TIMES編集長

1975年生まれ。大学卒業後、外資系広告代理店を経て「伝えたいコトを伝えるカタチに」をコンセプトにクリエイティブ会社『ASOBOT』を設立。以後、ジャーナル・タブロイド誌『GENERATION TIMES』の創刊や、NPO法人『シブヤ大学』(グッドデザイン賞2007受賞)の立ち上げなど、広告PRか

らコミュニティデザインまで幅広く手掛ける。また、東京外国語大学『平和構築・紛争予防コース』で非常勤講師を務め、ボスニアやイラクなど紛争国の留学生と共に、クリエイティブ技術を平和構築に活用する新しい平和学『PEACE COMMUNICATION』を研究している。



#### 中谷 剛

NAKATANI Takeshi

通訳 / 翻訳家

ポーランド国立アウシュヴィッツービルケナウ博物館における唯一の日本語公式ガイド。学生時代の1987年、初めてポーランドに旅行で訪れる。その後3年間の会社勤めを経て、退職。再びポーランドに赴き、1991年よりポーランドに移住。1997年にはオフィ

エンチム博物館公式ガイド資格を取得する。著書に『新訂増補版・アウシュヴィッツ博物館案内』『ホロコーストを次世代に伝えるーアウシュヴィッツ・ミュージアムのガイドとして』など。

### 横浜 ▶▶▶ コーチン



#### 木村 真希子

KIMURA Makiko

市民外交センター副代表 / 津田塾大学国際関係学科准教授

インド北東部とビルマ国境のナガランド独立運動を知り、先住民族運動や民族紛争に興味を持つ。2001年からインドの首都デリーのジャワハルラール・ネルー大学に留学し、社会学における博士号を取得。専門は社会学(エスニシティ論)、南アジア地域研

究。国際人権NGO市民外交センターや草の根平和構築NGOジュマ・ネットの活動を通して、日本やアジアの先住民族運動の支援に携わる。編著に『市民の外交ー先住民族と歩んだ30年』など。



#### 石川 清

ISHIKAWA Kiyoshi

フリージャーナリスト、引きこもり訪問サポート士

大学時代にフィリピンのスラムに何気なく住み着いてから、日本とアジアの関係、人間と社会の亀裂などについてアジア各国を歩きながら考え続けている。ODAや「もの」のつながりなどを通してアジアと日本の関わり方の取材を続けているが、日本では人とつながらずに悩む引きこもり問題についても、当事

者と付き合いながら考え、引きこもりケアのボランティアグループを作るなど活動している。今回のクルーズでは、多様性やコミュニケーションを学ぶ「グローバルスクール」のナビゲーターとして、コミュニケーショントレーニングなどのワークショップを行う予定。

横浜 ▶▶▶ ピレウス



前田 哲男  
MAEDA Tetsuo  
軍事ジャーナリスト

長崎放送記者を経て、フリージャーナリストに。1970年代はマーシャル諸島ビキニ環礁で行われた核実験、80年代は中国四川省重慶に対し日本陸海軍航空隊が実施した無差別爆撃の実態を日中双方の記録などを取材。自衛隊、米軍基地、沖縄問題などを「人間の安全保障」の立場から批判的、かつ対抗構想を提示して論じている。平和憲法の理念を

具現化した「平和基本法」制定の提唱者にも名を連ねた。元東京国際大学、沖縄大学教授。著書に『棄民の群島ーマイクロネシア被爆民の記録』『戦略爆撃の思想ーゲルニカ・重慶・広島』『自衛隊変容のゆくえ』『9条で政治を変える 平和基本法』『「従属」から「自立」へ日米安保を変える』など多数。

横浜 ▶▶▶ マルセイユ



鎌田 慧  
KAMATA Satoshi  
ルポライター

戦後日本の社会派ルポライターの代表的存在。労働問題、原発、開発、教育などをテーマに、現場に深く入り込んで取材を続けてきた。現在も日本各地、そして世界を巡りながら弱者の立場から告発するルポルタージュを多数発表。著書に毎日出版文化賞受賞『六ヶ

所村の記録』『日本の原発危険地帯』『原発暴走列島』『反骨のジャーナリスト』『自動車絶望工場』『沖縄 抵抗と希望の島』『狭山事件の真実』など多数。また、「さようなら原発」運動呼びかけ人やピースボートの「旅と平和エッセイ大賞」の選考委員長も務めている。

ダナン ▶▶▶ ポートサイド



宇井 孝司  
UI Takashi  
アニメーション監督

テレビシリーズ『タッチ』の演出を皮切りに、1988~90年代にかけて映画『森の伝説』を監督(手塚治虫氏と共同)、テレビシリーズ『ジャングル大帝』の脚本と監督を担当し、文化庁芸術祭優秀子供番組賞を受賞。2009年に行われた「こども音・楽・館2009」では、ムソルグスキーの組曲「展覧会の絵」を聴いた

子どもたちが描いた絵をアニメーション化した。今クルーズでは『世界平和交響曲~世界中の子どもたちとつくるアニメーション~』と称し、世界中の子どもたちが描く「夢」「未来予想図」「住みたい世界」をテーマに絵を集め、映像化を予定している。

ダナン ▶▶▶ アカフトラ



武者小路 公秀  
MUSHAKOJI Kinhide  
元国連大学副学長 / 反差別国際運動(IMADR) 副理事長

ベルギー生まれ、武者小路実篤の甥で、母方の祖母はフランス人。帰国子女、登校拒否のハシリ。1950年代初期、学習院大学で平和運動を始め、その後平和学を専攻。1960年代にはキリスト教諸派合同の平和・開発運動を経て、1970年代後半に国連大学副学長となり、欧米中心でない社会科学研究者とネッ

トワークを組む。1990年代には、国連NGO 反差別国際運動で、ダリット・部落問題や搾取的移住・人身売買問題に取り組む。2000年代には、名古屋COP10の開催地市民活動に参加して、生命の一体性と多様性を先住民族の伝統知から学ぶ運動に参加する。

シンガポール ▶▶▶ アカフトラ



羽後 静子  
HANOCHI Seiko  
中部大学教授 / 中部ESD拠点推進会議コーディネーター、フェミニスト

専門は国際政治学、人間の安全保障、国際ジェンダー論。「持続可能な開発のための教育(ESD)」を普及させるための地域拠点として国連大学より認定された中部大学にて、その研究や実践活動を行っている。特に地域の歴史・文化・経済の活性化、多文化共生や日比国際児(JFC)の支援活動などを行う。

女性の権利に関する活動にも力を入れ、1995年に開かれた国連世界女性会議(北京)に参加し、その後も女性NGO・北京JACの立ち上げやグローバルなフェミニズム運動に関わっている。カナダヨーク大学大学院、政治学研究科博士課程修了。

シンガポール ▶▶▶ コーチン



マニッシュ・ジャイン  
Manish JAIN  
教育と開発を再考する人々の団体『シクシャンタル』共同創設者兼コーディネーター

ユニセフ、国連開発計画(UNDP)、世界銀行などの教育計画、プログラムデザイン、メディアなどの分野のコンサルタントとして活躍する中、教育のあり方に疑問を抱く。帰国後、インドのウダイプールで「教育と開発を

再考する人々の団体『シクシャンタル』を設立し、過去15年そのコーディネーターを務める。地域の生態系・経済・文化の再生に注目した教育や、「解放のための学び」に関する複数の書籍を編著している。



ヴィディ・ジャイン  
Vidhi JAIN  
教育と開発を再考する人々の団体『シクシャンタル』共同創設者

自身が創設した団体「シクシャンタル」と共に、「学習都市ウダイプール」過程プロジェクトにおいて15年間に渡り学習活動家として活躍。この中で、「共同家族学習」イニシアチブや地域メディアに取り組んでいる。シクシャンタル設立以前2年間は、障害を持った子どものための隔てのない学習環境をデザ

インし、関心を高める学習プログラムを製作、運営した。またそれ以前は、北インド痲痺性痲痺者協会を通じてデリーに住む子どもと密接に取り組んだ経験をもつ。愛娘カンク(11歳)の誕生以来、学校に頼らない学び、「アンスクーリング」を試みている。

シンガポール ▶▶▶ マルセイユ



豊田 直巳  
TOYODA Naomi  
フォトジャーナリスト / 日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA) 会員

1983年よりパレスチナ問題の取材を開始。1992年からは中東以外の「紛争地」をも巡り、そこに暮らす人々の声を、テレビ、新聞、週刊誌等に発表してきた。2003年、平和・共同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞。2011年3月11日に起きた東日本大震災以降は福

島県を中心に取材を続けている。著書・写真集に『フクシマ元年』『福島 原発震災のまち』『戦争を止めたい フォトジャーナリストの見る世界』『世界の戦場から イラク 爆撃と占領の日々』『「イラク戦争」の30日』『パレスチナの子供たち』など多数。